

包括利益の表示方法

１．包括利益を表示する計算書

論点整理に対するコメントは、当期純利益と包括利益の明確な区分という観点などから、大部分が２計算書方式を支持している。一方、IASB と FASB は、ディスカッション・ペーパーにおいて １ 計算書方式への一本化を提案しており、金融商品会計の見直しとの関係等で １ 計算書方式への一本化を前倒しする方向で合意している。

このような状況を考慮すると、少なくとも短期的な対応としては、現行の IAS 第 1 号 と同様、１ 計算書方式と ２ 計算書方式の選択を認めることとしてはどうか。

〔包括利益をどの計算書に表示するか〕

選択肢	メリット	デメリット
① ２ 計算書方式のみとする	・ 当期純利益を重視する従来からの考え方と親和性が高いとする見方がある ・ 論点整理に対するコメントの大勢とも合致	・ コンバージェンスの観点からは、近い将来に乖離が生じる可能性が高い ・ １ 計算書方式を禁止するまでの理由はないとする見方がある
② １ 計算書方式のみとする	・ IASB と FASB の検討の方向性と一致し、比較可能性も確保される ・ 一覧性、明瞭性、理解可能性等の点で利点があるとする見方がある	・ 論点整理に対するコメントの大勢と相反する ・ 当期純利益を重視する従来からの考え方と親和性が低いとする見方がある
③ 両者の選択を認める	・ 現行の IAS 第 1 号と合致 ・ 論点整理に対するコメントの大勢に反しない ・ 国際的に主流となる可能性の高い １ 計算書方式を採用する選択肢を残せる	・ 選択肢を設けることは比較可能性の問題があるとともに、将来的に国際的な基準との差異が生じるとする見方がある

２．親会社株主と少数株主に帰属する包括利益の内訳表示

連結上の包括利益の表示方法として、論点整理で（１案）及び（２案）として示した方法が考えられる。

	メリット	デメリット
１案	・ 包括利益の計算が当期純利益から開始される ・ １ 計算書方式を選択した場合に違和感が少ない	・ 包括利益の計算の意味が不明瞭となるおそれ（少数株主損益を、包括利益の計算の中で足し戻す形になる） ・ その他の包括利益の合計が表示されない
２案	・ 包括利益の計算構造が明瞭になる ・ その他の包括利益の表示を国際的な基準と合わせやすい（少数株主損益調整前当期純利益は、国際的な基準の Net income と対応するので）	・ 包括利益の計算が当期純利益と直接つながらない形式となる ・ １ 計算書方式を選択した場合に違和感がある

① １ 計算書方式か ２ 計算書方式かという論点との関係

現行の当期純利益（少数株主損益調整後）を前提にすると、上記のとおり ２ 案は １ 計算書方式を選択した場合に違和感があるという見方がある一方、１ 案の場合には、１ 計算書方式か ２ 計算書方式かの選択は特に制約されないと考えられる。

１ 案と ２ 案それぞれのメリットを考慮し、両者の選択を認めることでどうか。

なお、具体的な表示方法については、注記情報も含め引き続き検討を行うこととしている。

② 企業結合プロジェクトとの関連性

企業結合プロジェクトにおける少数株主持分の取扱いに関する議論の影響を受ける可能性があるが、包括利益の表示について早期のコンバージェンスを図る観点から、少数株主損益を含まない現行の当期純利益を前提とし、将来的に企業結合プロジェクトの結論によって変更の必要が生じた場合には、それに伴う基準改訂として別個に対応することとしてはどうか。